

前略

7月8日の件について感じる事がありますので、ご連絡致します。

既に7月8日の状況の詳細については、中村様はシズナガ総務局職員から詳しく連絡を受けていらっしやると確信しています。

私は6月初旬にシズナガ総務局職員から、中村総務局長様の仲介により7月8日（当初は7月2日と連絡を頂きましたが）に、月照寺関係者との話し合いの為の会合を開催して頂ける旨の連絡を頂き、あのような幕引きを目的にした場になるとは予想もせず、素直に何の疑いもなく出席しました。

会合が始まるや否や、月照寺関係者3人から、私の発言を遮る目的だけの為の「揚げ足取り」「嫌がらせ」だけでなく、まがいの「脅し」をも受けました。当然に中村様は、その「脅し」の内容についてもシズナガ総務局職員から連絡を受け、把握しておられるものと私は信じております。

私には7月8日の会合は、どう考えても「話し合いの場所」であったとは受け止める事は出来ません。本当に中村様が総務局長の立場で、月照寺の将来を思って開かれた「話し合いの為の会合」だったのですか？「幕引き」だけを目的とした「会合開催」だったのではありませんか？

もし、7月8日の会合が、中村様の意図とかけ離れた会合であった、そして又、予想もしない不本意な結末であったとお考えであれば、再度、100%確実な「話し合い」の為の「会合」を開いて頂く事を、中村様に要望させていただきます。再度の「話し合いの為の会合」の際には、とても浄土宗僧侶とは思えない

まがいの原出雲教区長の出席は見合わせて頂きたい。併せて、前月照寺兼務住職安井昭雄氏の甥である、新月照寺兼務住職高梨博昭氏に対しては、私への私的な感情を抑え、公人としての月照寺兼務住職の立場にある浄土宗僧侶に相応しい、自覚と責任をもったの発言を伴う出席をお願いしたいと希望しております。

それでは、再度の「実りある話し合いの為の会合」の開催を期待して、この手紙を終わらせて頂きます。

ご連絡をお待ちしております。

草々

平成26年8月5日

松本博二